



Ferris University

2011 No.9

フェリス女学院大学同窓会会報



カイパー記念講堂とパイプオルガン

《聖句》

「悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。」

ルカによる福音書 6章43節

黄砂

学院理事長 小塩 節



今年は三月以来、日本全国が暗く不安に満ちた日々が続いている。思うようには被災された方々にお助けができなくて胸のつまる思いを皆様も抱いておいでだろう。この苦難をこの国が何とか乗り越えていってほしい。若い人たちの将来にこの願いはかかっているだろう。そして主なる神の御導きを祈るや、切なるものがある。

ところで、そのようなときに愚痴めいて申しわけないのだが、今年の春も大気中に花粉ばかりか黄砂が舞い、目に見えぬ放射能とちがつて過敏体質の私は鼻や目をモロにやられて閉口した。花粉症はアレルギー症の由だが、黄砂は中国大陸北西部の大砂漠から舞い上がる膨大な砂塵が天空をおおい、海を越えて日本にも及んで降ってくるのだ。砂粒だからアレルギー症よりも物理的な痛みが感じられる。黄色い砂塵なので黄砂とも黄沙ともいう。空が真っくらになる日もあった。今春も減りはしなかった。この黄砂が、スイス山中から流れ出て

イツとフランスの間を流れる一、三二〇キロの大河ラインの流域にも大量に積もっている。中流のライン・ワインの収穫が豊かなあたりや、下流のオランダに入るあたり。なんと実に十メートルもの厚さで積もっている。いや、正確にいうと今のライン河はかりでなく、その前身の大氷河がアルプス山中から削り出し、砂状に砕いた黄砂に、動植物などの物体が混じって肥沃な土を造り出している。ワインのものとブドウだけではなく、アスパラガスなどがよく育つ。この土壌を「黄砂」の土と人びとが呼んでいるので、私はアルプスから風が運んできたものかと思いをしていた。大河ラインが運んできて大河のわん曲線のあたりで沃土を積み重ねたとされる。単なる砂ではないという。

しかし最近の科学的な研究分析によると、たしかにただの岩石粉塵ではないから栄養分も高いのだが、なんとアフリカから地中海を渡りアルプス連峯を越えて、風に乗って運ばれてきた「本当の」砂塵成分もあるという。それならばたしかに黄砂・黄沙と言っても間違いはない。話は洋の東西でだいぶ共通してきた。そして恐らくそれらの砂の中には、山手の丘の上、三浦岩盤の上に八メートルほど降り積もっている火山灰(ローム層)と同じ成分が入っているのではあるまいか。面白い関連ではないだろうか。

フェリスにおける「For Others」の歴史

学院長 大塩 武



故気仙三二名誉教授は、「誰かが『この学校のモットーは『For Others』ですよ』と言って、それを掲げながら始めたのではなく、自然に形ができて指摘します(モットー『For Others』をめぐって)『待望』三三三号、一九九二年七月三日。それでは、どのように『For Others』というフレーズがフェリス女学院のキャンパスに定着したのでしょうか。歴史を溯つてみました。創立後およそ半世紀近く経つと、私たちは『For Others』を資料として見出すことができるようになります。

気仙先生の調査によると、メイグス(McGee)が作詞した、「For Others」という詩に、シールズ(Elizabeth McShields)が一九一七年に曲をつけて賛美歌にしました。この詩が一九二五年に発行された白菊会の会報(一八号)に掲載されていますから、当時フェリス女学院で賛美歌「Others」が歌われなかったとは言えないでしょう。しかし、一九二六年本科卒業・二七年研究科卒業のファクトマン・喜代子さんという方が、「フェリスで教えられた『愛』『誠実』を心のモッ

トーとしての忙しい毎日でございます」(「フェリス女学院一〇〇年史」と語っています。つまり、一九二〇年代の半ばでは「For Others」はまだ一般化していなかったのでしょう。一九三五年頃になると学校新聞「フェリス」に「For Others」をしばしば見出せるようになります。一九三五年五月二日号で竹中治郎が「標語 For Othersの発行查」という表現を用い、一九三六年五月三日号には、坂本田鶴子が「本校の生徒方はフェリス魂を持っているのであります。『他人のために』と申す標語がそれであります」と語り、さらに、一九三九年三月三日号には、林貞が「他人のため」といふ学校の格言」という表現を残しています。したがって、一九三〇年代後半には「For Others」が学内に定着していたことを予想できます。

ところで、故山永武雄元院長(在任期間一九五三～一九六五年)は、「For Others」を語るときは、パウロの聖句「めいめい自分のことだけでなく、他人のことに注意を払いなさい」(フィリピの信徒への手紙)二章四節)を好んで引用したので、卒業生の証言によれば、当時の生徒は誰でも、「For Others」とパウロの聖句を対で受けとめていたようです。一九六四年度以降の「短期大学入学案内」にはその聖句が表紙の裏に印刷されており、山永武雄院長時代にパウロの聖句がいつしか「For Others」の典拠とされるようになったと思われまふ。この半世紀生徒学生の心にパウロの言葉が刻み込まれたという事実を尊重した上で申しあげれば、「For Others」とパウロの聖句の結びつきの偶然偶々という側面には興味を覚えます。

困難な時にこそ

学長 宮坂 覺



東日本大震災で被災された方々にお見舞いを申し上げ、また被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。フェリスでも、人的に巻き込まれた方を含め、かなりの方の被災が報告されております。卒業生の二名の方が召されました。ご冥福をお祈りしたいと思います。在校生関係などでも被災は広範囲にわたり、被災地支援とともに、その支援に取り組んでいます。どうぞ覚えてお祈りくだされば幸いです。

同窓会の皆様には、日ごろからお世話になり感謝申し上げます。特に、昨年の「F140コミュニケーション」発信の際には大変お世話になりました。数カ国の元首直接の反応を含め多くの方々からお祝いと共に感のメッセージが寄せられています。すでに述べてきたことですが、コミュニケーション発信は、M・キダーを介して一四〇年にわたってフェリスの教育を紡いできた先人たちに敬意を表するとともに、現代の関わるものが伝統を再確認し矜持を共有し、一五〇周年、二〇〇周年に向けた手立てになることを企図したものです。「伝統と革新」のフェリスの今後の営みの縁になることを希っています。

今年度は、「F140コミュニケーション」を見据え、モットーである「For Others」をさらに具体化を求めて始動し始めました。そんな矢先、出鼻を挫かれる3・11大震災が起き、今もその対応は継続中で大きな課題の一つです。昨年の「会報」で、現代における歴史的感性と鳥瞰（俯瞰）的感性の欠如に触れました。3・11は、それを遠景化するような事柄でした。誤解を恐れずに言えば、パラダイム・シフト（既成の規範や価値観の変換）を歴史に強いるレベルでした。十年単位で問われるほどの歴史的出来事とも言えます。

3・11は、他者への関わり方に変化をもたらした個々の生活感、生活環境に対する価値観の変換をもたらすでしょう。一人ひとりが、生きることに意味を問われることとなります。3・11後から「できることではないか」「何かしなければならぬ」のその思いは、国内外からの多額な義捐金、グローバルなボランティア活動などとなって持続しています。天災と人の知恵が関われる原発問題にみる人災の複合的な問題を抱え込んだ混乱は、数年続くでしょうが、確実に人の世界に変換（パラダイム・シフト）をもたらすでしょう。

いま、「あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてください」（コリント信徒への手紙 10章13節）を心に留めたいと思います。困難な時、混迷な状況だからこそ、明日への夢と希望を抱き、他者と共有し共生することが、フェリス人の思いでもあると信じます。

「退任のご挨拶」

前学院院长 岡野 昌雄



早いもので、フェリスに来て八年が過ぎました。それまでまったく関係がなかったのに、しかも仕事嫌いの怠け者が、どうしてこのような役目を引き受けたのか、未だに謎です。皆さんの母校である学院に大きなご迷惑をかけたのではないかと思いますので、はじめにお詫びしておきます。

フェリスはどんな学校で、自分は何をしたら良いのか、何ができるのか、不安に満ちた出発でしたが、先入見が全くなかったのがかえって良かったように思います。学院の歴史を読み、いろいろな人と出会い、フェリスはこういう学校なのだ、あるいはこうあつてほしい、そんな自分なりのイメージがだんだんと形づくられました。特に同窓生の皆さんとの交流は大変に有益で、また楽しいものでした。経験というのは、時の経過とともに成長しながらその意味が明らかになって来るものですから、学院の教育は、今の学生たちばかりではなく卒業生たちを通

して、その内実が見えてくるように思います。明るくのびやかで、積極的な皆さんの生き方は、この学院で培われたものでしょう。

学生たちが入れ替わるのに、伝統とか校風とか、何か一貫したものがあるように言われるのは、自分たちが何を受け取り、そして何を次に受け渡すべきかを学院がたえず問いかけながら歩んできた、その自己理解があるからだと思います。さまざまな困難を経験しながらも、フェリスはそのような継承がしっかりと行われてきたように思います。創立一四〇周年のクリスマス礼拝は忘れ難い思い出です。過去の経験を大事にしなげら、しかし後ろ向きにならず、力強く前進する、これからもそのような歩みを通じてほしいと願っています。

これからは余生とは言えないほど長い人生が退職後も続きます。学校での学びも、職業生活での経験もすべて、一人ひとりに与えられたかけがえのない人生を、どのように生きて命の贈り主に応えるか、その問いを誠実に生き抜くためだと思います。その意味で、現在の学生や教職員による活動ばかりでなく、卒業生たちによるような生き方をすることが反映されて、学校の伝統を形づくるのだと思います。同窓生の皆さんの美しい生き方、それが学院を生き生きと生かすのです。八年間有難うございました。

第九回合同総会 中止について

このたびの「東日本大震災」で被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた皆さまのご冥福をお祈り申し上げます。

地震発生後、大学は三月三十一日迄学内の安全確保及び点検等を行うため、学内立ち入り禁止の措置を行いました。

それに伴い、卒業演奏会、卒業式が中止となりました。

四月、新年度を迎えても、余震、計画停電等諸般の事情に鑑み、大学は入学式を中止致しました。授業の開始も大幅に遅らせました。

そのような中で、同窓会として合同で総会を行うことは困難と判断し、中止させていただきました。同窓生の皆さまにはご理解を賜ります様、お願い申し上げます。

なお、Fグループは、総会のご案内をお送りした後でございましたので、予定通り開催いたしました。

*** 来年は、四月三十日(月)を予定しております。**

第27回 りてら総会・中止

今年4月29日に予定されていた総会は震災の影響で急遽中止とさせていただきます。会員の皆さまには震災お見舞いと総会中止のはがきをお送りしました。

りてらの運営に関する議事決定は、学年幹事会が担っております。

毎年、総会前の学年幹事会で、前年度の事業報告・決算、今年度の事業計画・予算の承認を受け、新年度の活動が始まります。

本年も4月29日(土)に緑園キャンパス大会議室で学年幹事会が開催され、種々の問題について率直なご意見を伺いました。特に減少する収入(終身会費納入率の低下)と、郵送費など経費の増大については、多くのご提案が出され、終身会費だけの運営見直しの必要性について、貴重な提言をいただきました。

この問題については、今後とも検討を継続し、広く皆さまにもご理解いただき、ご協力をお願いいたします。



昨秋の学年幹事会の様子

(報告 羽田 明美・79J)

第22回 りるて総会・中止

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

4月29日に予定されておりました総会は、震災に伴う授業日程の変更や交通機関の状況を鑑み、書面評決となりました。

発送数四、六五〇通、うち返送一、一一六通。第一号議案から第七号議案について審議頂き、全ての議案において会則の基準を満たすご賛同を得、承認されました。

今回、書面評決となった事で、今まで総会にご参加が叶わなかった方にも資料をお届けし、りるての活動をお知らせする事が出来ました。皆様からの返信には、ご自身の近況、同窓会に対するご意見の他、「りるて奨学金」創設について、多くの方々からその主旨をご理解頂き、心の想いを記して下さいました。同窓生の「絆」を、後輩へと繋ぐ大切な役割を頂いたと感謝申し上げます。

私達りるて役員一同は、皆様の母校への想いを大切に、今後も「フェリスの風」を発信し続けたいと願っております。

感謝と共にご報告致します。

(報告 岩江眞理子・D15)



Fグループ総会

本年は大学合同総会は中止となりましたが、Fグループは4月29日に個別総会を開催いたしました。

山手キャンパス5号館541教室に、大塩武新学院院长、宮坂覺大学長、藏田雅之音楽学部長をはじめ9名の来賓の方々をお迎えし、100名近くの同窓生が集いました。

総会には熊本会長の挨拶、藏田音楽学部長のご挨拶から始まりました。議事に入り、10年度会計報告・会計監査報告・11年度予算案、10年度活動報告、11年度活動予定がそれぞれ承認されました。来賓の大塩学院院长、宮坂大学長からご挨拶をいただき、新卒生5組によるミニコンサートが行われました。その後、各支部からの報告、小松田事務局長からのご挨拶、そして立神先生、宮本先生、細川先生から大学の近況をお話しいたいただき、懇親会となりました。

今年は音楽学部の60回の卒業生を迎える記念の年でしたので、3回生から60回生まで世代を越えて母校への思いを胸に、素敵な一時を過ごしました。

たくさんの方のご協力によって総会が開催できましたことに感謝いたします。

(報告 金出地佳代・55回)



創立140周年記念 クリスマス礼拝

学院創立一四〇周年を記念して、二〇一〇年二月八日(土)、パシフィコ横浜国立大ホールに於てクリスマス礼拝が開催されました。

中高の生徒、大学の学生、保護者、保証人、同窓生、教職員、理事など四〇〇名以上が参加いたしました。

大学三同窓会は毎年、白菊会と合同でクリスマス礼拝を行っておりませんが、今回は、学院と共にクリスマスをお祝しました。

司式は中高宗主事の野田美由紀先生、奏楽は中高オルガニストの大浦邦子先生でした。

小塩節理事長の、フェリスに連なるすべての皆さまクリスマスおめでとうとお祝い言葉ではじまりました。そして小塩先生は次のようにおっしゃいました。フェリスは、先人達の高い志と祈りによって建てられ、手から手へ、時代から時代へ、次から次に繋げられ、私達に伝えられ、次の世代へと連なって行くでしょう。一四〇周年の歴史の中で、平和な時も困難な時も、多くの方々によって支えられてきました。その中で自然に伝えられたモットーが For Others なのです。それこそが、私達の誇りであり、喜びです。ここに創立一四〇周年の感謝の時を持つことができました。感謝と賛美の声を天に上

げたい。声を合わせ、声の限り感謝と賛美の歌を高らかに歌いましょう。

グロリアインエクセルシス デオ (いと高きところでは神に栄光があるように)

前奏は、ハンドベルクワイヤにより演奏され、大ホールいっぱい澄んだ音色が響き渡り、心が洗われる思いでした。礼拝は厳かに進行し、中高生の

合唱、聖歌隊の特別賛美、生徒による聖書朗読、一同による賛美と進み、岡野昌雄学院長による説教が行われました。賢者の贈り物というオーヘンリーの小説を題材としてお話されました。

それぞれが相手を思いやり、自分の大切な物を手放してクリスマスプレゼントを用意する、ジムとデラの貧しくも幸せな夫婦の物語です。何の報いも望まず自分を犠牲にして、相手に自分の愛の全てを与えた。これは、イエスの愛そのものです。主がご自分を犠牲にして私達を救ってくださった、それに

通じるお話だったので。ですから私達は、命を大切に生き抜くことができたら、それこそが主のみ心に叶うことでしょうと、お話されました。

ハレルヤを一同で合唱し、廣石望大学宗教主任による祝祷、後奏でクリスマス礼拝は終了しました。

この礼拝は、学院により企画され、同窓会もお手伝いをして、約二、〇〇〇名の同窓生が参加しましたが、事前申し込み制で、先着順となり止むくお断りした皆さまにはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

出席された方から、毎年でもこのようにクリスマスをお祝いしたいとの感想を数多くいただきました。当日のプログラムもご参照ください。

このクリスマス礼拝に寄せられました献金五九九、四一九円は、三月一日に発生した東日本大震災の義援金として日本赤十字社に送金いたしました。



二〇一〇年度実績のご報告

維持協力会は、一九九五年に財政基盤の安定化をはかるため設立した組織です。在学生の保証人の方々、同窓会、卒業生のみならず、一般有志の方、企業など、三、〇〇〇名を超える会員様からご支援をいただいています。

一四〇周年記念の年でもあり、同窓会、保護者、保証人、卒業生、元教職員等多くの方から温かいお気持ちを寄せいただき、寄付金総額は二六、七九三、六六七円、達成率六七・〇%となりました。改めて厚く御礼申し上げます。引き続き、生徒たちの教育環境充実のためにご支援くださるようお願いいたします。

ご協力いただいた寄付金は、大学キャンパス施設設備拡充の将来計画実現に向けて、「第2号基本金引当資産」に積み立てております。

●二〇一〇年度寄付金実績額

*内訳 大学部会 二六、七九三、六六七円
中高部会 一八、五一八、二五五円

●二〇一一年三月末現在
大学部会積立残高累計 四一、七三三、三七六円

【お問い合わせ・資料請求先】

フェリス女学院本部事務局
総合業務課維持協力会担当
TEL: 〇四五―六二―四五一
FAX: 〇四五―六五―一四六三〇
*e-mail: hsonmu@ferris.ac.jp
*学院HP: http://www.ferris.jp

「学院をお支えくださる皆様へ」



今年も同窓会会報をお届けする季節となりました。昨年就任のご挨拶をさせて頂いてから、あっという間の一年でした。会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

三月十一日の悲しい出来事により被災された会員の皆さまに、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。清々しい新緑の時期に会報の準備が始まりましたが、お手元に届く頃被災地の復旧はどれほど進んでいるでしょうか。暑い日々、ご健康を保たれますようにお祈りいたしております。

お見舞いカードでお知らせしました通り、震災後、大学の諸行事は中止となり、構内への立ち入り禁止に伴い準備不足が懸念されたため、残念ながら総会を中止いたしました。ぜひ来年の総会には、多数の方々にご参加いただけますようお願いしております。

りてらは今年、新たに五五一名の新しい会員をお迎えし、会員数一六、三八一名となりました。

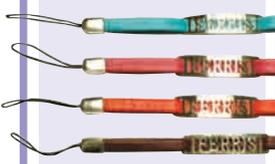
同窓会の大事な仕事は、会員名簿の維持と保守であると考えております。卒業後の大学からのお知らせは、全てりてらを通してとなります。りてらからののお知らせを始め、同期

会やクラス会などの開催お知らせの住所確認のためにも、住所の変更は早めにお届けくださいますようお願いいたします。

また、ご存知のように同窓会の運営資金は、入学時にお預かりする終身会費で賄われております(退学された場合には、ご返金しております)。今年度は震災の影響もあるかとは思いますが、会費の納入が激減しております。数年前より毎年の会費だけでは立ち行かない状況は把握されておりまして、一番経費の掛かる通信費(会報発送など)の節減のため、送付方法を変更いたしました。が、会員数の増加に伴い、会費収入だけでは大学への施設・設備資金や奨学金などのご寄付も、今まで通りには出来なくなるおそれが現実にならうと思っております。

そのため、今年度秋に開催される第二回学年幹事会において、会員の皆さまに任意での『通信費』のご協力をお願いする提案の準備をしております。りてらも近い将来、会費徴収方法の根本的改革が必要になることと思われまします。

今年も「ちいさな旅くらぶ」、『大学三同窓会合同クリスマス礼拝』を実施予定です。ご参加をお待ちしております。オリジナルグッズ販売にも、ご協力くださいませ。売り上げは、大学に寄付させていただいております。楽しい同窓会を目指しております。二年目の今年は少しゆとりを持って運営にあたる事が出来たらと思っております。どうぞよろしく、お願い申し上げます。

 <p>● シルバーオオノ製 純銀オリジナルプレート ネックレス・プレスレット・ ストラップ三様に使えます。 (水色・ピンク・茶・オレンジ) 各8,000円</p>	 <p>● スパイラルボールペン & シャープペン (グリーン・ブルー・ピンク) 各600円</p>	 <p>● マルチボールペン (ボールペン黒青緑赤 & シャープペン) 1,000円</p>	 <p>● ボールペン & シャープペン (ピンク・水色・青) 各100円</p>
<p>● お申し込み・ お問い合わせは りてら同窓会室まで ● 送料はご負担ください TEL. 045-812-8692 FAX. 045-814-8966 *火・木曜開室 (大学休暇中は閉室)</p>	 <p>● クリアファイル 3枚セット 300円</p>	 <p>● 一筆箋 250円</p>	 <p>● マルチクリーナー (眼鏡・携帯拭き) 各500円</p>

時代を生きる

副学長 大野 英二郎



私たちは誰もが、自分の人生の時をはかり、時代を眺める定点、あるいは物差しのようなものを持っていくのではないのでしょうか。その定点や物差しは世代によつて異なるので、同じ時代を生きていても、眼にする時代の風景は世代ごとに異なるように感じられます。

教員を続けていると、当然のことながら、次第に学生との年齢が離れていきます。いまや在学生は平成生まれとなりました。今年の一年生はほとんどが平成四年、西暦一九九二年の生まれです。つまり彼女たちが生まれた時点で、すでにベルリンの壁は崩壊しており、ソビエト連邦は解体し、バブル経済も終焉してしまいました。その後の二〇年間で日本にとつて失われた時代であったことは、政治や経済の面からは異論のないところでしょう。若者の就職難などは相変わらず深刻です。しかし私のように高度成長期に育った人間からすると、この二〇年間は物質的、生活の面では案外安定的で、それなりに充足した時代であったかとも思われます。

学生たちに、「あなたの人生の中で、生活を変えたと思うような新しい技術や出来事は何でしたか」と質問すると、数年前はポケベルからPHSに変わった時という返事でしたが、今年の学生の多くはインターネットが使えた時とのことでした。物心ついた頃にはワープロからパソコンへの進化も完了していたのでしよう。私のような世代からすれば、彼女たちが育った時代の技術は考えられないほどに進歩し、生活水準も向上していたとの印象です。東京デイズニールランドは一九八三年に開業しました。したがって今の学生にとってミッキーマウスとは、ウォルト・デイズニールの創作であるよりは、東京デイズニールランドのキャラクターの一つであるとのことでした。

こうして平成生まれの学生が入学するようになってからは特に、学生とは異なる時代の風景を眺めているとの思いを強めておりました。しかしながら今年の東日本大震災と、それに続く一連の混乱は、私たちの社会と生活の存在に対して大きな衝撃を与えました。おそらくこの災害は現代に生きている私たち全員にとって、いわば世代横断的に、時代を画する出来事になったのでしよう。しかし私たちが何ものかを強く共有するのは、このような不幸な時だけに限られてはいないと、私はいまだに信じております。

りてらカフェ (大学祭)

11月6・7日の両日、緑園キャンパスで大学祭が開催され私たちは『りてらカフェ』として参加し、薫り高いコーヒー・紅茶を楽しんでいただくカフェと、同窓生の手作り品展示販売をしました。すてきなお作品の数々が出品され、その売り上げの一部とカフェの売り上げ全額とを合わせて、大学に寄付させていただきました。

条件の良い場所ではなかったのですが大盛況とまではいきませんが、その分、静かにゆつくりとしていただけ、会員同士ものんびりお喋りを楽しめました。

今年の大学祭には「大学ホームカミングデー」のお手伝いをするため、りてらは参加いたしません、例年通りに緑園キャンパスで11月5日(土)・6日(日)に開催されます。



小さな旅くらぶ (鎌倉散歩)

くらぶにご加入いただいた会員の皆さまと11月25日、秋の鎌倉を楽しんでまいりました。昨年の会報でご紹介した鎌倉市川喜多映画記念館・鶴岡八幡宮を訪問。

鎌倉野菜をふんだんに採り入れたイタリアン・ランチを頂きながら、初対面の先輩後輩方と大学時代から現在のことまで多岐にわたる会話を、それぞれのテーブルで楽しんでいただきました。同じ大学で学んだ...というだけで、すぐに打ち解けられる不思議は『りてらマジック』でしょうか。

今年クリスマス前の12月1日(火)に、懐かしい山手の丘を散歩する計画を立てております。

くらぶ加入ご希望の方は、りてら同窓会室までお申し込みください。ご案内をお送りいたします。



りてら 2010年度決算報告

(2010年4月1日～2011年3月31日)

●収入の部 (円)

科目	決	算
終身会費		9,180,000
利息		74,337
収入小計		9,254,337
前年度繰越金		36,679,143
収入合計		45,933,480

●支出の部 (円)

科目	決	算
事務消耗品費		199,031
印刷費		685,627
報関連費		2,092,050
総会関連費		768,611
通信費		196,682
通給費		726,667
交手数料		346,030
パソコン関連費		12,457
会議費		318,525
卒業・入学関連費		78,170
交際費		780,350
備品費		80,431
一学祭費		29,660
大寄費		20,191
140周年関連費		133,282
会費		2,061,135
企画費		765,869
雑費		70,000
支合計		9,394,538
次年度繰越金		36,538,942
合計		45,933,480

同窓生だより 追悼 金子(旧姓小池)いづみさん

金子いづみさんを偲んで

早川 芳子(元大学事務部長兼海外交流課長)

この追悼文を書くのは余りにも重く、悲しいものです。震災翌日に悲報を知り、驚きました。金子さんは母校を愛し、後輩に様々な足跡を残しました。後輩に就職のアドバイスをする『有職者の会』の初代代表としてご尽力いただき、時には大学祭での『スロバキアワインの紹介と大使夫人の講演会』は好評でした。

ヨーロッパで日本語教育が行われている大学との協定を模索しているときに、コメンスキイ大学の紹介を受けました。この大学は日本語教育の盛んな欧州の中心的伝統校で、協定が結べたことは、フェリスの海外交流の大きな前進となりました。笑顔絶やさず、穏やかに前向きに行動するお姿は、多くの人に『人との交流の大事さ』の『種』を時かれました。必ず大きな花が咲くと思います。ぜひこの大きな花を見ていてください。地上でのお別れは辛く悲しいです。天国でお会いしましょう。愛する方を失い、深い悲しみの中にある御家族の上にも神様の慰めをお祈りいたします。

いづみとたまみ

小池 たまみ (83 E)

姉いづみと私は一つ違い、お互い励まし刺激し合うまさに親友のような関係でした。いづみは国文科に私は英文科に一九七九年に同時に入学しました。クラブ活動ではいづみはESSに入部し、またKUEL(関東学生英語会連盟)

にも所属して他校の学生達とも交流していました。KUELの夏合宿で当時のチェコスロバキアからの留学生と出会い、それが後のスロバキアと日本の文化交流へと繋がっていきます。ゼミは宮坂先生にご教授願いました。

いづみは卒業後、商社に就職し、支社の業務のコンピュータ化のためオーストラリアに赴任します。帰国後に退社し、コンピュータを使った教育について模索していきます。そして、一九九五年にコンピュータに関する業務を主な内容とした会社を設立します。一九九六にはスロバキアの芸術家の日本への紹介、一九九七からは奈良県野田川村とスロバキアの子供たちの交流をスタートさせています。

一年前から東京観光専門学校でフューネラルプロデュース科で週一回PC実習講座を持たせていただき、その学校の三月一日の九段会館での卒業式に出席し、天井崩落の犠牲になりました。大勢の方々からいづみの冥福、そして私への声援をいただきました。皆さま方のお心遣いに心から感謝申し上げます。被災されました多くの皆様、ご家族の皆様にご挨拶し、御見舞い申し上げます。

いづみちゃんと の思い出

戸塚 木美 (83 E)

こんな形でこんなにも早くいづみちゃんとお別れることになるなんて、誰が想像出来たでしょうか。自



1983年卒業式
左いづみさん 右妹たまみさん



2011年3月5日
フェリスの友人と。左端がいづみさん



2011年3月9日 カフェにて

金子いづみ(旧姓小池)さんを偲んで 二元橋 久美子(旧姓森開83 E)

東京の九段会館の崩落事故で親友の小池

身で会社を設立しパソコン教室を開催、老若男女生徒さんたちはいづみ先生の親切な指導のもと、年賀状や写真集、カレンダーなどを楽しそうに作っていました。そしてそのグループの輪が広がり、新たにピアズ教室や和紙教室も誕生したのでした。また彼女はスロヴァキアに魅せられ、ミクシーではスロヴァキア私設応援団としてその魅力をより多くの人にもつと伝えていきたいと語っています。

いづみちゃん、あなたはその名のとおりです。泉(水)が湧き出る所(その湧き出た美しい水は静かに流れ出しやがて小川になり河と合流して大海へと導かれる)いづみちゃんのまわりにはいつも人が集まり、何か新しいことが始まり、その中心にはいつもあなたがいました。皆に頼りにされ、慕われていました。まだまだやりたいことがたくさんあったことでしょう。ただただ無念でしょうか言えません。もつと一緒にいたかった。もつと楽しい時間を共有したかった。いづみちゃん、どうぞ安らかに。心からご冥福をお祈りいたします。

いづみさんが亡くなられたとの悲報をメルボルンに在住している妹のたまみさんから受け取り、言葉を失いました。

いづみさんとはESSの仲間として学生時代から三十年近くクラブの仲間とともに親交が続いておりました。

いづみさんは女性の起業家として異業種交流会などに積極的に参加し注目され、当時のマッキンゼー社の大前研一氏が平成維新の会から国政に立候補する女性の候補者として、依頼したほど、仕事、政治と多方面における才能を発揮しておりました。

また、アフリカの子供のフォスターペアレントとして支援をしていました。

彼女を思うと、建学の精神の『For Others』思い起こします。いづみさんの五十年あまりの短い人生は、「他の人のために、他の人とともに」歩んできたのだと思います。

いづみさん、たくさんさんの愛がありがとう。あなたと過ごした楽しい思い出とともに、素晴らしいあなたのことを、いつまでも忘れることはありません。どうか安らかに眠りにつかれますように、お祈り申し上げます。

りてらアーカイブの

今回は大学開設からフェリスを見つめ、名誉教授になられた 永田道子先生です。

今年三月十一日、関東東北地方を襲った災害は、この地域に止まるだけでなく、広く私達の生活をも脅かし、復興までには気の遠くなるような時間を要する災害となりました。被災された方々およびご家族に心よりお見舞い申し上げますとともに被災地での復旧・復興活動に従事しておられる方々の安全とご健康を祈ります。

「皆さん、こんにちは」。私が授業を始める際、最初に心がけている言葉です。ですから、このコーナーに初登場しますのでやはり初めの言葉といたします。

大学は、一九六五年四月に開設されましたから今年三月で四十五周年となりました。そして私は大学開設と同時に「二級教育」の体育助手として着任しましたので同じく四十五年目となります。まだまだ人生を語るほどにはまいりませんがしかし、これまで生きてきた歲月のほとんどもをフェリスで過ごしたことになります。日本体育大学体育学部を卒業と同時にその年四月に着任しましたので二十二歳になつ



永田 道子 先生

たばかり、夢と希望を胸にそして気合い十分に教育・研究の場に飛び込みました。当時は文学部英文科一、二年生、国文科一年生(現日本文学科)で始まりましたので、私と学生の皆さんとの歳の差は殆んどありません。ごくごく普通に学生と間違われました。「夢と希望と気合」に心は膨らんでいきました。がなかなか学生気分は抜けませんでしたね。授業やクラブ活動の後、よく元町や港の見える丘公園等が散歩しながら乙女らしい夢に花を咲かせました。

二十七歳で長男を出産し、流石にこの頃から学生に間違われることもなくなりましたが、このことは嬉しいやら残念やらとチョッピリ複雑な思いでした。その後、二男、三男と続き悪戦苦闘の始まりです。

教育・研究と育児を両立させるのは大変なことでしたが、同僚の先生方の温かいご助言とお見守りがあって仕事を続けることができました。そのなかで特に忘れられないのは「教職」責任者であり心理学者の井上恵美子先生の存在でした。当時先生の研究室は山手体育館の二階にありましたのでよくお会いしましたし、時には体育研究室で美味しいコーヒーを一緒にしながら楽しいお話をさせていただきました。全国女子体育学会での研究発表の時は、お忙しいなかご出席くださいました。緊張と同時に先生の温かい励ましを感じたことを覚えています。そしてちょうどその頃、私は育児について少し悩んでいましたので、いろいろとお話を聞いていただきました。先生は包み込むような優しさでアドバイスをしてくださり私の肩の力を抜いてくださいました。その時のアドバイスは、今でも大切に心にしまっています。

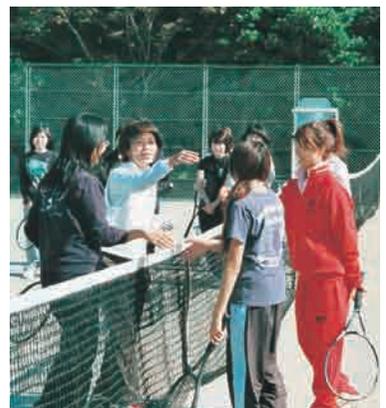
そして時々思いだしては自分を振り返っています。その井上先生は昨年十月にご他界されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

一般教育科目の体育実技・講義は、当時一・二年生必修科目でしたからコマ数も随分多く開かれていました。山手校舎に体育館が建設されるまでは、中・高体育館や地域の公共施設である横浜文化体育館、公園体育館(フレイヤージュ)を借用しての授業でした。毎日午前八時三十分から授業が組まれていた頃は「朝、始発の電車に乗って通学しても一眼目に間に合いません。」と申し出る自宅通学生もいたほどです。同じ神奈川県内であっても遠い処からの通学生は大変でした。五年後山手体育館が建設されたので軒々と学外施設での「借りぐらしの体育授業」は終わり、漸く充実した授業展開ができるようになりました。

授業は二単位必修でしたしクラスによっては二年続けて担当したことなど、やはり科目の特性でしょうが、学生とも自ずと濃い関係が生まれ名簿を開くとお一人お一人の顔がパーと浮かびました。卒業されて数年経つ方々の中には街角や飛行機の中で「〇〇さん、先生」と思わず声をかけ、手を取り合ったこともあり。今年度が始まって数週間たったある日、学生の一人が「母が学生時代、先生に体育を教わったそうです。」と親しく話しかけてきました。このように卒業生の御嬢さん方を教える機会に恵まれた事、さらには幾人もの卒業生の方々と同僚として仕事ができたと感謝しています。

クラブ活動(バレーボール部)での関係はさらに深まり、まだ三人の子供達が小さかった頃は、クラブ練習中にボール籠の中で泣いているオチビ達の相手をしてよく遊んでくれました。卒業生相互の関係も深く、お互い喜び事はもちろんのこと、育児、進学、就職の悩みや就職の手助け等々、良い友人関係が続いています。

今、体育は「健康科学」、「健康スポーツ」として選択科目になり、半年完結となりましたが



意欲的で印象深い学生がいっぱいです。

私の担当する科目は健康科学と、実技では球技系(バレーボール、テニス、バドミントン)、スキーです。そして運動生理学、スポーツ医学の分野から「女性のエクササイズパフォーマンス」という女性の性周期と体温調節との関係、それがパフォーマンスにどう関るかというテーマで授業を担当しました。これは教員生活後半の研究テーマです。

私は自分の専門から学生の皆さんに女性の身体の特性を理解し、そして生涯に亘る健康を、生活全体(身体運動、食生活、休養)を通して目指してほしいと願っています。

今年一年、非常勤講師として来ています。甘い飴と辛い飴を上手く使い分けながら……。

りてら同窓会室

開室 毎週火曜・木曜日 10時～16時
(大学の春・夏・冬休期中は閉室)
〒二四五-一八六〇
住所 横浜市泉区緑園四一五-二三
フェリス女学院大学内
電話 〇四五-一八二-一八六九二
FAX 〇四五-一八四-八九六六
メールアドレス hietla@uranus.dh.ne.jp

りべるて

Vol. 23
家政科同窓会

感謝とお願い

会長 金子 和恵



皆さま、いつもりべるての活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

三月一日に起きた東日本大震災は、私達の想像をはるかに越えた自然災害でした。被災された皆さまにお見舞を申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。さらに原子力発電所の事故は、目に見えない放射線が今後、次の世代も含め健康にどのような影響を及ぼすか心配です。

そのような中、今年も会報をお届けできますことは、寄稿並びに編集にご尽力くださいました方々のお陰と感謝申し上げます。

りべるての会員は約五、五〇〇名で、現在住所が判明している会員は四、六〇〇名程です。結婚、転勤等で住所不明となられる方が多くいらっしゃいます。同窓会の一層重要な要素が住所管理です。どうぞこれからも転居等、ございましたら同窓会室までお知らせください。また、お友達でりべるてからお手紙が届いていない方がいらっしゃいましたらお知らせください。宜しくお願いいたします。

さて、この一年の活動を振り返りますと、講習会に新しい方の参加が増えていくように思います。懐かしく思って来てくださるので、とても嬉しんです。お一人でもどうぞお気軽にご参加ください。お待ちしております。

また、これからの活動についても役員一同常に考えておりますが、会員の皆さまからのご意見・ご要望等がございましたら、お知らせください。

今年度は地震の影響で総会が開催でき

ず、書面評決とさせていただきますが、多くの方から「役員皆さま、ありがとうございます」との一言を添えていただきました。本当に皆さまの暖かいお心遣いに感謝申し上げます。

最後に、りべるての活動をお手伝いいただけの方を探しております。今までも折にふれ、お声掛けさせていただいておりましたが、広く募集いたします。特に若い方のご参加をお待ちしております。木曜日が活動日です。どうぞ宜しくお願いいたします。

奨学金贈呈

去る五月二六日、家政科記念館に宮坂寛学長、秋山信義大学事務部長をお招きして、友井ゆり子先生と共に奨学金の目録を贈呈いたしました。



この様な社会情勢で、多くの学生が援助を待っているようで、少しでもお役に立てますことを大変うれしく思っております。学長からも感謝のお言葉をいただきました。

二〇二一年度役員

会長	金子 和恵	D 51
副会長	村本とよ子	D 35
書記	小倉由紀子	D 43
書記	北村 周子	D 43
会計	遠藤木美子	D 45
会計	石井 克子	D 43
総務	佐藤 昌子	D 57
総務	近藤 誠子	D 44
総務	鈴木 初枝	D 44
総務	岩江眞理子	D 51
総務	三浦由里子	D 64
会計監査	郷 佑美	D 43
会計監査	浅見 治美	D 45

行事予定

- 十月八日(土) 奥山先生を偲ぶ会
 - 十一月二日(水・三日(木・祝) フェリス祭参加バザー
 - 十一月十日(木) 友井先生お料理教室
 - 十二月十日(土) フェリス同窓会クリスマス礼拝
 - *十一時、カイバー記念講堂
- 二〇二二年
- 一月十八日(水) 大村先生ステンドグラス教室
 - 一月二六日(木) 大森先生お菓子教室

二〇二一年度総会に代わる書面評決について

四月二十九日に予定しておりました総会は、異例ではありましたが、書面評決とさせていただきます。会則の第9章第28条(1)を適用させていただきます、發送数四、六五〇通、返送数一、一六名(五月十九日)で、20%以上の主席者を以って成立いたしました。

結果につきましては、別表をご覧ください。結果につきまは、別表をご覧ください。

第1号議案は二〇二〇年度事業報告です。毎月役員会とイベントの準備、それぞれの役員の仕事等、毎週木曜日は記念館を開館して活動しました。

第2号議案は二〇二〇年度りべるて基金運営費決算報告です。これは、家政科が閉じられた時、当時の先生方が同窓会の活動資金として一億円を基金として残してくださいとので、その利息が主な収入となっています。

第3号議案は二〇二〇年度りべるて決算報告です。りべるての同窓会が以前より引き継ぎ、その時々で行った事業の収入の積み重ねです。日々の活動は基金で行いますが、寄付金、りべるて独自のグッズ販売、バザー収入が主な収入源です。

第4号議案は二〇二一年度事業計画案です。承認されましたので、事業は行われます。各種講習会にどうぞご参加ください。お待ちしております。

第5号議案は二〇二一年度予算案です。内容について少し説明をします。この予算は学

院管理の基金ですので、学院の科目に準じています。消耗品費にパソコンの導入を考えていますので予算化しています。記念館は学校施設ですので、工事等調整が必要で現在に至っています。旅費・交通費は、役員が活動するためにかけた実費です。前年より予算を決めています。多すぎるとの指摘が二通ありました。毎週木曜日の活動、役員会、同窓会との交流等、役員には交通費実費が支払われます。通信・運搬費は、各種お知らせ等郵便料金です。印刷製本費は、会報、クリスマスカード等です。会議・会合費は、総会

催し物、会議等にかかる経費ですが、実際より多く予算を取っています。諸会費は、四つの同窓会で集める年会費です。渉外費は、慶弔費です。雑費は、どの項目にも当てはまらないものに使います。予算は学院会計に要望書を提出して認められますので、合計金額が重要です。今回の書面評決は予算化されていませんが、年度末にこの合計約二七二万円内に納められます。以上、解りにくいところもあります。できるだけ節約をして活動しています。

第6号議案は奨学金創設についてです。この中で、いざれ活動を終えると書きましただころ、直ぐにやめると思われた方がいらつしやいました。そうではありません。最後の卒業生が40代半ばになろうとしていますので、今後30年は続きません。今後の活動につ

いては時間をかけ話し合わなければいけません。奨学金については下記をお読みください。ご理解をいただきますよう、お願いいたします。ご意見欄にとても良い事ですと、多数の方々にお書きいただきました。

第7号議案は会則改正です。同窓会名簿の初めに会則が載っておりますが、その中で必要などころを修正案としてお出しました。初めての書面評決でしたが、総会に出席できなかった方々から、内容がわかり、とても良かったとの意見をいただきました。今後も皆さまと共により良いりべるてを目指してまいりますので、ご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

今回経費節減のためメール便を使用しました。その結果、ラベル下のNo.が消えてしまい混乱を招いてしまいました。お詫び申し上げます。

ご理解をいただきますよう、お願いいたします。ご意見欄にとても良い事ですと、多数の方々にお書きいただきました。

《別表》書面評決結果

議案	承認	否認	表記なし	計
第1号議案	1,105	0	11	1,116
第2号議案	1,102	2	12	1,116
第3号議案	1,104	2	10	1,116
第4号議案	1,100	1	15	1,116
第5号議案	1,099	3	14	1,116
第6号議案	1,072	24	20	1,116
第7号議案	1,096	6	14	1,116

りべるて奨学金について

家政科が発展改組の名のもと一九八九年三月に幕を閉じてから二三年が経ちます。

近年学院や大学に、家政科が存在したことを知らない方も増えています。家政科で教鞭を取られた先生も現在大学ではお二人となりました。大学は緑園都市にあるため、山手で活動する私達とは距離があります。そこで、認知度を高めるために各種料理教室を企画しましたが、一時的な感は否めませんでした。

そこで、家政科の名前を残し、役に立てる事をと考えていましたところ、近年の経済状況から入学後家庭の事情により勉学を諦める学生が増えているとの話を聞きました。経済的理由で前途有為な後輩を救えないかと考えた時、これは家政科の卒業生が持つ思いやりの精神に通じるのではないかと考えました。

りべるてがやがて、その活動に終止符を打つことは明らかなことですが、五五〇〇名の卒業生の思い出や母校に対する愛校心を大切にして、りべるての足跡を永く学院の歴史に留めるため「短期大学家政科同窓会りべるて奨学金」を設立するものであります。皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

役員募集

りべるてのお手伝いをしていただける方を募集いたします。

- *木曜日が活動日です。
- *交通費(実費)を支給します。
- *昼食は各自ご用意いただきます。

惜別 奥山 正夫 名誉教授

仲村 (三宅) 明子 (D 43)

私が初めて先生とお会いしたのは、家政科受験の日でした。試験の監督として教室に入られた時、何とダンディーな素敵な方でしょうと、まさに「一目惚れ」状態でした。

入学し、新入生オリエンテーションのクラブ活動の紹介の際には、高井先生のオートハープの伴奏と共に素晴らしい歌を聞かせて頂き、即刻コーラス部への入部を決めました。それから毎月のように奥山先生と高井先生の同室の研究室へ「奥山ゼミ」の「恋愛講座」へ通いました。楽しい二年間でした。

一九九三年に同窓会でコーラスを組織しないか、という声がありOG会を中心に奥山先生にご指導をお願いし「コールりべるて」を結成しました。毎月一回、家政科記念館で楽しく歌い、休憩のティータム、終了後は全員でランチに繰り出すという楽しいコースが定着しました。「りべるて総会」で数回歌を発表する機会がありました。

二〇〇五年の夏頃から先生のご体調がすぐれず、二〇〇六年一月に脳腫瘍の手術をされ、三月の練習日には復帰されたのですが、ご病気が再発し、二〇〇七年秋には山



手までお出かけになれませんでした。二〇〇八年三月のりべるて創立三〇周年式典で歌わせて頂いた時はご自宅へ伺い練習しました。これを最後に「コールりべるて」は解散しました。

去る五月二四日、「故奥山正夫先生を偲ぶ会」を家政科記念館で、コーラス部OG会と「コールりべるて」で行い、奥様と友井先生から生前のエピソードを伺い、奥様からは、昨年ダイヤモンド婚を迎えられたお話や、ご家庭での様子、キリスト者としての奉仕のお話を伺い、皆で先生作詞の歌を歌いました。

ご生涯を他者の為に捧げ、神への賛美と愛を歌われた先生のお姿を模範とし、少しでも他者の為に役に立てるように努めたいと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

二〇一一年三月十四日帰天 八九才

奥山先生を偲ぶ会 (於家政科記念館)
二〇一二年十月八日(土) 十三時三十分～十五時
お申し込みは、九月二十九日迄に「りべるて」
TEL・FAX 〇四五・六六二・〇七五〇

二号館見学会

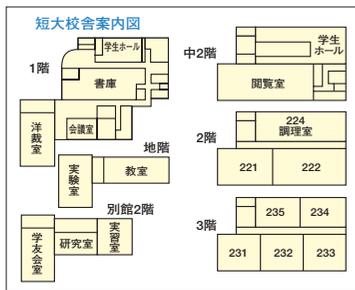
一〇月二日(土)、懐かしい2号館の見学会を行いました。2号館は昭和五〇年代まで家政科の授業で使われていました。朝早くから石段を登り息を切らせて教室に駆け込んだ方も多かったのではありませんか。

お天気に恵まれた当日、二十二人が校門に集合しました。友井ゆり先生とご一緒に校舎に入りました。現在は、本部の事務室と中高の特別教室、白菊会の同窓会室などに使われていますが、少し改修されており、先生も初めは戸惑っていらつしやいましたが、次第に思い出され先頭に立つてお話をしてくださいました。螺旋階段がこんなに狭かったかしらと感じたり、天井が低かったと改めて思ったりしながら進んで行きました。美術室として使われている教室の片隅で、何と短期大学家政科と書かれた物指しを何本も見つけました。きつと洋裁の授業で使われた物だと思いましたが、三〇年近くも置かれていたことに驚きました。調理実習室だった現家政科室の入口の段差は、調理室を衛生的に保つためだった



たと初めて伺いました。地下にある教室も、ミシンはこの向きにあったと思いついた方もいらして賑やかな見学会となりました。また、当日は、当時家政科の事務室でお世話になりました小松田事務局長、秋山大学事務部長もご一緒にご案内くださいました。そして、カイパー記念講堂に新しく設置されたパイプオルガンを見学させていただきました。

見学終了後は、家政科記念館に場所を移し、昼食をいただきながら、楽しいひと時を過ごしました。



献品のお願い

フェリス祭バザーのためにご家庭で利用されない未使用の日用雑貨品や贈答品等がございましたら、献品くださいますようお願い申し上げます。尚、食料品、衣類は除外させていただきます。

●受付期間…十一月一日まで

毎週木曜日、午前十一時～午後三時

●受付場所…家政科記念館

〒二三一八七九〇 横浜市中区山手六八
家政科同窓会りべるて宛

郵送宅配便でお送りいただいても結構です。

活躍する同窓生

D 60 中田 みち



私が昨年より社長を務めております株式会社トーエルは、一九六三年の創業以来、「火」・「水」・「空気を」をライフワークとして出発し、火はLPガス、水はビュアウォーターまで手掛けており、この計画を継承すると共に来年の創業五〇周年に向けてトーエルの発展と安定に全力を注いでおります。

フェリス女学院で学び、多くの友人が出来たこと、その経験・人脈を今の仕事に活かすことができ、心より感謝しております。

トーエルの基盤であるLPガス事業は、エネルギー消費大国の日本においてベストミックスに不可欠な要素であり、まだまだ発展の余地があります。弊社は、お蔭様で神奈川県一位の供給シェアを誇っており、現在、一般家庭用・業務用・工業用・LPガスによる発電・太陽光発電とのハイブリッド化を積極的に展開しております。また、「トーエル独自の物流システム」を推進し、さらに研究・開発を行い、コストダウンを図っております。

トーエルの二本目の柱として更なる飛躍を見せるウォーター事業は、世界的ブランドの「ハワイウォーター」の輸入販売、地震等のリスク管理も考慮した国産ビュアウォーター「アルピナ」を長野大町（二六、六〇〇坪）の工場、無人・オールロボット・無菌室充填にて日本一おいしい水に仕上げ、価格を世界同レベルの安価にて日本人が扱いやすい12リットルボトルで販売しております。

新しい取り組みとして「火」・「水」事業で培ったノウハウを最大限活用したアグリ事業は、今年、厚木にて「植物生産工場」建設を計画しております。また、一五〇名体制のコールセンターは、LPガス・ビュアウォーターの受信業務だけでなく、異業種からのコールセンター業務の受託を開始しました。さらに子供がいる熟練オペレーターのスタッフが長期間、安心して働けるよう、近隣に事業内保育施設を建設し、運営しております。私にも一人の娘がおり、フェリス女学院を卒業後、現在の仕事に従事し二〇数年になります。最初は、家庭と仕事の両立に苦労しましたが、今では楽しんでる毎日です。私も家に帰れば、主婦であり、奥様（女性）が何に注目し、何を求めているかが分かります。その目線をもって経営を行ってまいります。

こうした事業の拡大を確実に遂行する為、創業者の経営理念である「商いは、全ての人に仕えること」をモットーにお客様から愛され重宝される会社となるよう努力してまいります。末筆ながら、同窓生の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

北欧絵織物教室

いよいよ本格的な夏を迎えた六月二二日、家政科記念館に着くと、梅の実が良い香りで私たちを迎えてくれました。今日は、矢吹先生の北欧絵織物の講座の日です。前回初めて参加したところ、とてもおもしろく、今日の日を楽しみにしていました。

矢吹先生は、北欧絵織物の基礎を学びながら、短時間でも、作品が完成するデザインを考えて下さいました。

ちいさな台紙に縦糸をはり、それを元に横糸を織り入れ、うさぎのデザインを織っていきます。顔に目口を入れるときはとても緊張してしまいました。目口が入るとそれぞれの作品は、なぜか、作者に似ていて、思わず微笑んでしまいました。最後に代わり糸で花束をあしらひ、かわいいうさぎのミニ額が仕上がりました。

センスの良いかわいい作品で、とても嬉しく思いました。

学年を超えて、懐かしい山手の地で、和気あいあいと楽しい時間を過ごす事ができて、とても感謝しています。

門脇 裕子 (D 59)



フェリスグッズ

- シルバーオオノ製カードケース 2,800円
- エプロン(黒・赤・茶・青・ピンク・ストライプ赤・ストライプ黒) 各2,000円
- 牛革ペンケース(茶赤) 各1,500円
- ハンドタオル(クリームグリーン・ブルー・ピンク・白) 各450円
- 二四〇周年記念ファイル(2枚組) 200円



《グッズ申し込み先》

氏名・卒年・住所(郵便番号)・電話・商品名・個数を記入の上、「家政科同窓会りべるて」まで
TEL・FAX(045)662-0750

Fグループの皆さまへ

Fグループ会長 熊本美也子 (17回)



3月11日の東日本大震災により被災された同窓生とご家族ご親族の皆様には心からお見舞いを

申し上げます。本稿は5月に書いておりますが、皆様に会報が届くころには、この複合災害の復旧、復興が少しでも前に進み、人々が安心して暮らせる見通しが立っていることを願っています。

Fグループではご案内申し上げた通り、4月29日に山手5号館541教室に於いて「Fグループ総会」を開催

心の時代のはじまりを

音楽学部長 藏田 雅之



大震災の影響で様々な学事が中止、延期されるなか、卒業生や在校生の強い

希望で、震災の翌日開催される予定でしたメサイアが5月4日に震災の救済チャリティ公演として実施されました。また、一四〇周年事業として行われた、山手の丘コンクールも第2回が開催されることとなり、

いたしました。震災のために卒業式も卒業演奏会も中止となった新卒業生(60回生)5組9名によるフレッシュな演奏と作品発表を総会の中心に置き、大勢のご出席をいただき、和やかに執り行うことが出来ました。多方面からの応援があり、ご協力で心から感謝申し上げます。

また、秋に企画しております例年のジョイントコンサート(9/15)、研修会(10/7)、ティータムコンサート(11/10)のチケット売り上げの一部を被災された同窓生のお役にたてるように積み立てることに致しました。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

二〇一〇年度には夏から秋にかけてフェリス女学院創立一四〇周年記念「山手の丘音楽コンクール」が行われました。多くの同窓生が挑戦し、レヴェルの高い演奏を聴かせてくれました。今年8月には第

この会報がみなさまのお手元に届く頃には全国7ヶ所の予選地で熱演がくりひろげられていることと思います。

物質文明の分岐点を提示したかにも思える原子力の問題は改めて、あらかじめ人間にそなわっていないながら眠ってしまった心の世界への回帰をよびさましているようにも感じます。芸術が社会に果たすべき役割はこれまでになく大きくそこに音楽学部における教育の使命が深く関わっているように思います。皆様方のご支援をこころよりお願い申し上げます。

2回「山手の丘音楽コンクール」が岡山予選をかわきりに始まります。支部役員の皆様には再び多大なご協力をいただきますがどうぞよろしくお願いたします。昨年の12月18日には「フェリス女学院創立一四〇周年記念クリスマス」がパシフィコ横浜国立大ホールに於いて催されました。フェリス女学院につながる四、〇〇〇名を超える参加者の中、祈りと音楽による心に残るクリスマス礼拝でした。

最後になりましたが、Fグループは今春、学部・大学院あわせて二〇〇名の新会員を迎え会員総数約三、七〇〇名となりました。これからも全国の同窓生と母校をつなぐパイプ役として元気に活動してまいります。どうぞ御指導、御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

YOKOHAMA
山手の丘
音楽コンクール2011

フェリス女学院大学 フェリスホール
★ 2011年11月3日(土) 11.5日(日) 両日 11.5日(日) 両日
★ 2011年8月(予選) 山手5号館541教室
★ 2012年1月9日(決勝) フェリス女学院大学 フェリスホール

2010年度 音楽の贈り物

ジョイントコンサート

10年9月23日 フェリスホール

生憎の
お天気で
したが、
Fグルー
プジョイ
ントコン
サートを



開催いたしました。7組の同窓生をお迎えし、
新卒生のヴァイオリン演奏で始まり、続く皆
様もそれぞれ素敵な演奏を披露して下さいま
した。特に今年はオルガンの演奏もあり、フ
ェリスらしいコンサートとなりました！

学生時代を過ごしたこの山手の丘でのコ
ンサートに、出演者の方々からも懐かしい
というお声を頂くと同時に、私たちの母校
に長く受け継がれている音楽の尊さを毎年
感ぜずにはられません。特に短大時代の
卒業生方々の演奏は、美しさの中にも凛と
した知性と品性を感じさせ、後に続く我々
にとつて得難い指針を示して下さいさつて
ような気がいたします。

今年にはフェリスホールにて、9月15日
(木) 18時30分開演です。ピアノ、声楽、
二台ピアノによるコンサートです。ご来場
お待ちしております。

(担当 海野美栄・44回)

【10年度出演者】*森田千草(ヴァイオリン
59回)・長澤由希(ピアノ伴奏59回) *栗原
明子(ピアノ独奏47回・院1回) *宮川友美
(ソプラノ独唱54回)・谷坂仁美(ピアノ伴
奏54回・院8回) *久保佐緒里(二台ピアノ
51回・院5回)・池浦もと子(二台ピアノノ
51回・院5回) *山口真理子(オルガン57回
・院11回)・伊藤久加(ソプラノ独唱37回)・
堀内陽子(ピアノ伴奏31回) *増矢馨子(ピ
アノ独奏38回)

◆ジョイントコンサート出演者募集

毎年9月予定のジョイントコンサート
はFグループ会員、音楽学部関係者であ
れば出演可能です。詳細は事務局までお
問い合わせ下さい。(書類選考あり)

研修会

10年10月29日 フェリスホール

10年の研修会は「シューベルトのお話と演
奏」と題し辛島輝治先生をお迎えして行いま
した。前半は奥様の辛島仔緒子先生との連弾
曲と輝治先生のソロ曲、そしてシューベルト
についてのお話を頂き、後半は芳野靖夫先生
をお迎えして輝
治先生の伴奏で
歌曲を演奏して
頂きました。先
生方の素晴らしい
演奏がフェリ
スホール一杯に
響き渡り大変豪
華な研修会を無
事終了すること
が出来ました。



また今年
は10月7日(金)
17時からフェ
リスホールで
朝倉蒼生先
生・辻有子先
生、伴奏は高
須亜紀子さん
をお迎えしま
す。今年も是
非研修会に足
をお運び頂き、
優雅なひととき
をお過ごし下
さい。



ティータイムコンサート

10年11月11日 山手6号館631教室

10年のティータイムコンサートは28回生
の桑島実穂さんをお迎えして、カンテレの
演奏とお話をしていただきました。

(担当 小濱美穂・42回)

桑島さ
んはカン
テレの指
導や演奏
会を開く
傍ら、音
楽療法士
としても
活躍なさ
つていて
る多才な
方です。

カンテレはフィンランドの民族楽器です
が、日本ではまだなじみの少ない楽器のよ
うでして、当日は桑島さんの奏でるカンテ
レの調べに癒されるひとときでした。
又、フィンランドでのいろいろなお話も
交えながら、楽しいティータイムとなりま
した。

今年のティータイムコンサートは、11月
10日に16回生の熊取谷寿子さんをお招きし
て、リコーダー演奏を予定しております。
皆様のお申込みを、心よりお待ちしております。
(担当 中川佐和子・25回)



Fグループ2011年度コンサートのご案内

ジョイントコンサート

9月15日(木) 18:30開演
於: フェリスホール ¥1,000

【出演】

声 楽: 大澤 ゆかり(60回)、宮崎 陽子(60回)
二 重 唱: 吉竹 淑子・松田 千恵子(25回)
ピアノソロ: 久保井 明子(30回)、山本 香織(54回)
二台ピアノ: 三浦 晴美(53回・院7回)・齋藤 舞(56回)
フルート: 鈴木 みのり(60回)

研修会

~デュエットの楽しみ~

10月7日(金) 17:00開演
於: フェリスホール ¥1,000
講師: 朝倉 蒼生(ソプラノ)・辻 有子(メゾ・ソプラノ)
による演奏とお話
高須 亜紀子(ピアノ伴奏・41回)

ティータイムコンサート

11月10日(木) 14:00開演
於: 山手キャンパス6号館 ¥1,000(茶菓子付)
熊取谷 寿子(16回)によるリコーダー演奏
脇谷 敦子(ピアノ伴奏・32回)

《お問い合わせ・お申し込み》
Fグループ事務局(木曜日 10時~17時)
Tel & Fax: 045-681-6740

支部だより

北支部

支部長 工藤 羊子 (30回)

昨年、北支部では5月に札幌でコンサートを企画しましたが、今年は3月11日の東日本大震災により、東北地方で考えていた懇親会が計画できなくなっていました。

広い範囲での被災があり、東北地方に限らず今なお多くの地域で落ち着かない生活を送っている方がいらっしゃいます。

心痛む事に、同窓生で行方不明となられている方も1名おられます。その他、何名かは居住地を離れています。ほとんどの同窓生は被害にあついても無事に過ごせる状態の様です。お電話でお話できた何名かはみな、前向きに頑張っています、とおっしゃっていました。

これから数年は、復興に向けて大変な状態が続く、岩手、宮城、福島です。北支部として、何かできることはないかと模索しています。

一回かぎりのものではなく継続的にできることを考えるため、取りあえず、お話を聞きに行くつもりでおります。

来年のご報告が喜び溢れるものとなりますよう、祈ります。

中部支部

支部長 牛込 まり (25回)

当たり前に思っていた日常生活が、こんなに不安定で愛おしいものであったと、東日本大震災で思い知らされました。同窓生の中

は被災された方、行方不明の方があると聞きしてあります。一日も早い復興をお祈りいたします。震災後改めて、日本人としての誇り、思いやり、助け合いの精神を感じています。私達も後輩達にフェリスの精神をお伝えしなければと思います。



昨年の「ふれっしゅ」は素敵な四名の出演者でした。秋の「ジョイント」は黒川先生と藤村先生をお招きしてチェロ・ソナタを演奏していただき、同窓生の演奏を含め好評でした。ジュニアのコンサートは地震の直後でしたが、手伝ってくださる方や出演者が何とか動いた新幹線

で来てくれ、感慨深いものになりました。

近畿・中国・四国支部

支部長 二見 伊都子 (18回)

昨年夏のコンクールでは参加者夫々に審査員の誠実さが何より特徴でした。受験競争が厳しかった一昔前は「夏を制する者が受験を制する」と言われましたが、大学全入時代の現在は「夏を制する大学は大学改革を制する」と時代が変化しているのを感じました。

今年6月に、倉敷美観地区にある土蔵をギャラリー風に改築した会場で、総会と併せて会員相互のミニコンサートを計画しています。

子育て奮闘中の方やご家族の介護、お孫さんのお世話で日頃お忙しい方々もご家族の健康を気遣い乍ら集まって下さいませ。今回は華やかなイ長調の校歌を歌い易い音域のト長調で歌います。団伊玖磨先生、ごめんなさい。

九州・山口支部

支部長 安波 裕子 (24回)

二〇一〇年四月十九日、「ホテル日航福岡チャペルホール」。宇内先生(オルガン)、蔵田先生(テノール)、土屋先生(バリトン)、ヴォーカルアンサンブル九州(合唱)。二〇一一年一月九日、「あいはらホール」。黒川先生(ピアノ)、土屋先生(バリトン)、井上先生(チェロ)と合唱の演奏をいたしました。どの会場も盛会で楽しいフェリスの良さが伝わった。

訪問演奏は8月、10月、12月と久山療育園、老健ささおかに伺い、ピアノ、声楽、ハンドベル、合唱等を聴いて頂き大変喜ばれました。

初めてのコンクールは9月25日(声楽部門)、26日(ピアノ部門)でしたので、6月15日に学部長と福岡の高校9校に挨拶回りをいたしました。ヴォーカルアンサンブル九州(合唱)の活動も充実しています。



【お知らせ】

山口県在住の方は二〇一一年度より九州支部管轄になりました。尚、支部名を九州・山口支部といたします。

*二〇一一年度役員紹介

支部長 安波 裕子 副支部長 小串 成美
書記 榎田 一与 書記 実吉さおり
会計 三田留美子 監査 亀井 直子

fgroup 山手の丘音楽コンクール Fグループ賞

昨年初めて開催されました、山手の丘音楽コンクールに同窓会よりFグループ賞を贈呈いたしました。

《受賞された方々は、下記の通りです》

- ピアノソロ部門 大学生・一般の部入選 室賀紀子
- ピアノ連弾部門 大学生・一般の部第1位 伊藤慧、漆間有紀
- 声楽ソロ部門 大学生・一般の部奨励賞 藤田和恵
- 弦楽器ソロ部門 大学生・一般の部第1位 鈴木大樹
- フルート部門 大学生・一般の部奨励賞 谷内奈実子

賞品は、ドレスデン国立歌劇場、シユロス・ヴァツカール提攜制作CD&Sバークリングワインです。

このユニークなセットは、ドレスデン国立歌劇場の名演を聞きながら美味しいスパークリングワインを味わっていただくという粋な企画から生まれたものです。CDには、若杉弘氏指揮によるワーグナーのタンホイザー序曲を始め、スイトナー、プロムシュー・シユライヤー、ジェシー・ノーマンら往年の名歌手による、R・シユトラウスの蓋の騎士、モーツァルトのドン・ジョヴァンニ、魔笛、後宮からの逃走、ベートーヴェンのレオノールなど名曲の抜粋が収録されています。



フェリス音楽教室

こどもたちとともに56年

毎週金・土曜日 音楽学部校舎で授業

<山手教室> 045-212-2396

<緑園教室> 045-813-1070

http://www.ferrismusicinst.org

卒業生だより

フェリス卒業生を中心とした音楽団体「kiの会」を設立して約1年半、手探りですが、心いっぱい使って全力で、駆け抜けてきました。



「kiの会」には、声楽、器楽、(ピアノ、フルート、ヴァイオリン、オルガンetc.)作曲、アナウンサー、と様々なメンバーが所属しています。そのひとりひとりが、真剣に音楽を磨き続け、そしてそれを社会に役立てようと活動しています。

「kiの会」は、その力を花東のように束ね、より世の中に貢献できるように、なおかつ自身の成長につながり、聴いてくださる方々に喜んでいただけるような活動を心がけています。

現在最も力を注いでいるのが、「0歳児から入場できる赤ちゃんとお母さんのためのコンサート」です。聴きやす

く、かつ、きちんとしたコンサートプログラムの提供はもとより、新米ママさんたちが気軽に来られて、使い勝手の良いスペース(授乳室、飲食の出来るプレイルーム2室完備、保育スタッフによる様々な手助け、看護士常駐、など)、協賛の企業を募り、プレイルームへの遊具、絵本の提供やお客様へのお土産の配布など、ありとあらゆる知恵を絞って、汗を流し、お客様の笑顔のためにがんばっています。

もう一つ力を入れているのが、ミャンマーの難民キャンプの子どもたちへの教育支援です。「kiの会」では、(公社)シャンティ国際ボランティア会を通じて通算30万円の寄付を達成し、主に子供たちに本を贈る活動を続けています。まさに For others の精神です!



2010年度会計収支報告

<収入の部>

(単位:円)

項目	予算額	決算額
終身会費	4,000,000	3,770,000
研修会会費	100,000	121,000
ティータイム会費	30,000	44,000
ジョイント会費	130,000	180,000
宛名シール	15,000	12,880
雑収	50,000	94,466
小計	4,325,000	4,222,346
前年度繰越金	2,277,084	2,277,084
収入の部合計	6,602,084	6,499,430

<支出の部>

(単位:円)

項目	予算額	決算額
(1) 運営費	1,865,000	1,390,299
会議費	30,000	17,623
印刷費	60,000	59,561
通信費	150,000	115,232
通件費	600,000	591,740
交際費	80,000	58,536
事務費	50,000	48,887
備品費	100,000	0
出張費	60,000	38,800
交通費	450,000	380,000
学年幹事会費	70,000	65,255
特別委員会費	15,000	10,260
予備費	200,000	4,405
(2) 活動費	3,200,000	2,575,324
総会関係費	600,000	528,747
研修会関係費	350,000	340,665
ティータイム関係費	130,000	109,519
会報関係費	750,000	561,289
ジョイント関係費	320,000	174,684
リサイクル後援費	100,000	124,420
支部関係費	550,000	631,480
慶弔関係費	200,000	104,520
予備費	200,000	0
(3) 諸会費	370,000	370,000
連絡会維持費	70,000	70,000
維持協力会費	300,000	300,000
(4) 積立金	750,000	0
名簿積立金	50,000	0
積立金	700,000	0
(5) 予備費	417,084	165,000
支出合計	6,602,084	4,500,623
剰余金		1,998,807
支出の部合計	6,602,084	6,499,430

監査の結果、妥当かつ正確であることを確認しました。

Fグループ会計監査

大谷 園子
小西 和代

◆新役員紹介
●常任: 太田 和代 (25回)

◆フェリス女子学院大学音楽学部への募金箱についてご報告

Fグループ催しの折、設置しております募金箱より計一〇五、一三二円を、10年12月20日、大学音楽学部へ送金しました。ご協力頂きありがとうございます。

Fグループ会報編集
本田 緑 (35回) 白波瀬早百合 (36回)

◆住所・電話・姓の変更
旧姓・整理番号(宛名ラベル右上にある7桁の英数字)と一緒にお知らせ下さい。

◆慶弔
同窓生、先生の慶弔をご一報下さい。

◆山手6号館601教室の貸し出し、宛名ラベルの印刷、演奏会の後援を行っております。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

電話・FAX (045) 681-6740
E-mail: fgroup@feris.ac.jp

学年幹事会

二〇一一年三月三日(木)
山手6号館622教室

出席人数25名。10年度一般会計収支報告(仮)および会計監査報告、11年度一般会計収支予算(案)についての承認が行われ、各役員より10年度活動報告等がありました。

会はお天気にも恵まれ、和やかな雰囲気の中滞りなく進行し、茶話を楽しんだ後、閉会となりました。

(報告 阿部真季49回)

山下 美樹 (49回)
声楽学科卒、同大学院修士課程修了。在学中、オーケストラ協演の夕べ、卒業記念演奏会に出演。第1回ピアノ・声楽コンクール 奨励賞。

二〇〇五年モーツァルト「バスティアン」奨励賞。

二〇〇六年「バスティアン」にバスティアン役、二〇〇六年名古屋ジョイントリサイタル、ニューヨークカーネギーホールジョイントリサイタルに出演。二〇〇七年横浜にてリサイタルを行う。平松英子、ハンノ・ブラシユケの各氏に師事。kiの会代表。

おめでとうございます
大橋 多美子さん (20回)
二〇一一年名古屋音楽ベンクラ
ブ賞受賞

土屋 友紀さん (48回・院3回)
アジア国際音楽コンクール
優秀賞受賞

乾 ひろこさん (48回)
第41回イタリア声楽コンクール
金賞受賞

ホームページ開設!

http://f-group-hp.org/

ホームページ開設!

http://f-group-hp.org/

で実き
や充て
やずま
ほしに
た少の
できも
すが、
たいた
ざひ

同窓会支部だより

東京支部

フェリス女学院同窓会東京支部、名称は硬いのですが、活動は柔らかく、会員の方々は四つ同窓会の境を越えて皆様和やかな雰囲気を楽しんで下さっています。名前の通りご参加いただくのは東京近辺にお住まいの方(神奈川県は勿論、千葉埼玉からもご参加いただいております)に限られてしまいますが、興味のある企画を選んでお気軽に参加なさってみてはいかがでしょうか。

主な活動は十月の総会(午前)と講演会(午後)、年に二回(六月と十一月)の読書会(昨年・今年には宮坂学長の「芥川を読む」、そして一月の新春歌舞伎観劇です。他に春のお花見、江戸めぐり、近郊散策などを時節にあわせて企画しております。ちなみに今年十月の総会、午後の公演には落語家入船亭扇遊師匠をお迎えする予定です。これまで大学の先生方の講演、ピアノコンサートなどいろいろ企画してまいりましたが、時には変わった分野からゲストをお呼びするのも良いかと初めてを試みます。午後のひととき皆様と一緒に大いに笑わせていただきましょう！

東京支部も役員を含めて会員の高齢化が進み、若い同窓生の入会や、役員として協力して下さる方が少ないのが今後の課題です。支部のこともっと多くの方々に知っていただき、楽しく有意義な時間をぜひ共有できたらと役員一同願っております。

支部長 多賀 礼子

関西支部

昨年の関西支部同窓会は、例年通り十一月の第二水曜日(十日)に、神戸市の北野ガーデンで行われました。前年とは打って変わって好天に恵まれ、常連の方、始めての方、共々に楽しいひとときを持つことができました。

神戸は母校のある横浜に似て、坂の多い美しい港町ですが、北野ガーデンは、北野坂に面した趣のある洋館で、落ち着いた雰囲気のホテルと緑豊かな中庭が、心地よく感じられました。

ミニ礼拝、乾杯、会食と進んだところで素敵なサプライズがありました。岩崎さんのご尽力により、音楽学部ピアノ科教授の落合敦先生を特別ゲストとしてお迎えすることができました。

先生は大学でのピアノ教室の他、コンクールの主催、ご自身の演奏活動など幅広く活躍されていますが、ピアノは勿論のこと、お話の面白さでも定評があります。関西のご出身とお聞きして、一瞬もしかして吉本?と思ってしまうほどの爆笑トークで会場をわかせました。

演奏はクラシックからポピュラー、ジャズまで自由自在で、たまたもうウツトリ。大勢の方が「感激しました。来て良かった」と言っていました。

最後に東日本大震災の被災地の復興を祈りつつ、「For Others」の精神を守り続けていきたいと思います。

関西支部幹事 垣生 恵子

西南支部

主の御名を賛美致します。

同窓生の皆様、お変わりなくご健勝にお過ごしのことと存じます。

西南支部は、白菊会、りてら、りべるで、Fグループと毎年順番に当番幹事をお願いし、お陰様で、秋に合同の同窓会、総会を開催しております。

昨年は、十一月四日に福岡の大濠公園へ一望出来る「花の木」のレストランで開く事が出来ました。大学より宮坂覚学長先生、そして国際交流学部教授の高柳彰夫先生をお招きする事が出来ました。宮坂学長先生の「キリスト教初で、キター先生の思いが一四〇年間、フェリスの伝統を覚えて歩んで行く。」と力強いメッセージに聞き入りました。又、高柳先生からは、「地域からの国際協力「福岡と神奈川」の題で、アジアを意識された興味深いお話が学びの時となり、とても新鮮な思いが致しました。その後、ハンドベル演奏を披露させて頂き、校歌を歌い閉幕となりました。

学部や時代を越えて、お交わりが出来、とても和やかで楽しいおしゃべりに時を忘れ、喜びと感謝でした。出席者は五〇名と大勢で、これも幹事の英文科の永田貴子さん、小幡留美さん、村山結花さんの御努力の賜と感謝でした。

今年も秋に予定しております。幹事は家政科の方々にお願いし、役員共々皆様の暖かい御協力に感謝しつつ準備を始めております。

皆様どうぞお誘い合わせの上、ご出席下さいませ様宜しくお願ひ申し上げます。

支部長 伊藤 和子

(音楽科24期卒)



白菊会より

一四一年目の歩み

大学同窓会の皆様さまお健やかに過ごしていることと存じます。

いつも白菊会へご理解、ご協力を下さりまして心から感謝申し上げます。

日ごろの交流を通じて、大学同窓会の方々と心を一つに合わせ、一五〇年を目指してしっかりと歩んでまいりたいと思っております。

皆さまの益々のご活躍をお祈り申し上げます。

白菊会会長 服部ひろ子



《しらぎくティータイム》

“フェリス女学院創立140周年記念
クリスマス礼拝”ビデオ上映会

- 日 時：9月24日(土) 10:30
- 場 所：カイパー記念講堂
- 申 込：フェリス白菊会
TEL. 045-641-5200(火・木)
FAX.
- 会費無料

●同窓会は外国にもあります

- ニューヨーク事務所
Mrs. Rakuko Kuwayama
136 West 24 St. New York, N.Y. 10011 U.S.A.
TEL 212-675-3840
- ハワイ事務所
Mrs. Chizu Hatakeyama
3043 Hollinger St. Honolulu, HI.
96815-4211 U.S.A.
TEL 808-735-1296 FAX 808-735-1579
- カリフォルニア事務所
Mrs. Junko Yokota
3117 Mabury Rd. San Jose, CA. 95127 U.S.A.
TEL 408-923-4632 FAX 408-729-5669

クリスマス礼拝のご案内



《 日 時 》
2011年12月10日(土)
午前 11:00~
《 場 所 》
カイパー記念講堂

2010年度 フェリス女学院同窓会連絡会 会計報告
(2010年4月1日~2011年3月31日) (単位 円)

前年度繰越金	963,921
同窓会連絡会維持費	280,000
白菊会 (70,000)	
りてら (70,000)	
りべるて (70,000)	
Fグループ (70,000)	
利 息	239
小 計	280,239
収入合計	1,244,160
小塩理事長お見舞い金	30,000
送料	560
支部総会お祝い金	60,000
東京支部 (20,000)	
西南支部 (20,000)	
関西支部 (20,000)	
岡野学院長退任感謝金	200,000
支出合計	290,560
次年度繰越金	953,600

翌年度繰越金は、953,600円です。
以上、ご報告申し上げます。

2011年5月 会計：Fグループ 小林園子

創立140周年記念クリスマスの献金先 義 援 金 合計599,429円

【内訳】

同窓生	506,838円
一般 (理事・評議員・監事・維持終身会員・元教職員)	41,000円
中高保護者	8,141円
教職員	43,450円

【送金先】
日本赤十字社 599,429円

震災被災者への支援状況



東日本大震災で被災された全ての方々に、心よりお見舞い申し上げます。同窓会会員の中にも犠牲となられた方がいらつりやると伺っておりますが、そのお一人おひとり御霊の上に、そして御遺族の上に、慰めと平安をお祈り申し上げます。

横浜の地も、大きく揺れました。緑園キャンパスでは、年度最後の評議会と教授会が開催されていた関係で殆どの教員と、クラブや新入生を迎える準備をしていた上級生リーダー等、約百五十名の学生が活動しており、足止めされた約百名の学生が、体育館で一夜を明かしました。山手キャンパスでも数名の学生が足止めされましたが、両キャンパスとも翌日の午後には、全員が帰宅の途につきました。その後も計画停電等の影響と、学生および列席される方々の安全を鑑みて、卒業礼拝、学位授与式、入学式等の式典を中止し、四月中は、九〇分の授業時間を六〇分に短縮するなど、例年とは異なる対応を余儀なくされました。

幸いにして、二〇一〇年度の卒業生、二〇一一年度の新入生、そして在学生全員の無事が確認されました。しかし、父母・祖父母の方の人的な被害が二件、地震や津波、原発事故の影響で自宅に住むことができないといった被害が四件、その他自宅の一部損壊なども含めると、六月末時点で二八名の方から、何らかの支援措置を希望する旨の申出を受けております。

大学としては、学生の父母等保証人によって構成される「奨学会」と共に、それら被災された方々に御見舞い金をお渡しすると同時に、修学を支援する授業料等学納金の免除制度と、生活を支援する月額三万円の給付奨学金(返還の必要のない奨学金)制度の新設し、被災者への経済支援を行っております。この二つの制度は、卒業までの支援を目的とし、二〇一一年四月の時点で在学している学生に対して、標準修

業年限の間は、必要に応じて引き続き支援を受けられるものとなりました。

修学の支援については、大学の予算執行を抑制することで、その原資を賄う計画であります。お申し出も有り、学院のモットーである「More Others」の精神を實踐するためにも、関係各位からの厚志を以て充てる基金設立を計画し、七月初旬から新たな募金のお願いを始めたところであります。前述のとおり、最長でこの四月に入学して、少し長い期間にわたる、厚志を募ることとなります。同窓会の会員各位におかれまして、その趣旨をお酌みいただき、御協力をいただければ幸いに存じます。ご不明の点等ございましたら、大学事務部総務課(〇四五・八二二・八二二)までお問い合わせください。

まだまだ先行きの見えない状況であると同時に、本誌が皆様のお手元に届くころは、盛夏のただ中かと存じます。どうか、御自愛ください。

《同窓生の皆様へ》
同封の振り込み用紙にて、一口1,000円で複数口のご協力をお願いいたします。

二〇一〇年度新入会員

- 文 学 部 316名
 - 国際交流学部 225名
 - 音楽 学部 100名
 - 大学院 人文科学研究科 7名
 - 国際交流研究科 2名
 - 音楽 研究科 20名
- 三月の卒業式は東日本大震災の影響により中止となりましたが、同窓会にて、

サークル紹介

ギリシア哲学の会

指導 岡野昌雄先生
日 時 第三火曜日 一時半～三時
場 所 中高同窓会室
連絡先 光恵子
〇四五(八九三)二〇二二

聖書を学ぶ会

お 話 岡野昌雄先生
日 時 第二木曜日 十時半～十二時半
場 所 十二月は第三木曜日クリスマス会
連絡先 中高同窓会室
杉浦 昌子(S26)
〇四五(三二五)一一〇五

世界史講座—キリスト教と世界史—

講 師 棟居 洋先生
日 時 第三木曜日 十時半～十二時半
場 所 十二月はお休み
連絡先 中高同窓会室
数原安子(S48)
〇四五(四三三)五六九九

英語読書会

指導 吉野洋子先生
日 時 第三水曜日 十時半～十二時半
場 所 中高同窓会室
連絡先 大島 和子
〇三(三三二)〇七三三〇

ディジーグループクラブ

指導 田中 順先生
日 時 月二回水曜日 一時半～三時
場 所 中高同窓会室
連絡先 鈴木道子(S41)
〇四五(九三三)七六〇三



2011年度音楽学部コンサートのご案内

- ◆11月21日(月) 学部オーケストラ協演の夕べ
 - ソリスト/学内オーディション合格者
 - オーケストラ/フェリス室内管弦楽団
 - フェリスホール 19:00開演予定 入場無料
- ◆12月7日(水) 第10回フェリス管弦アンサンブル定期演奏会
 - ソリスト/学内オーディション合格者
 - フェリスホール 19:00開演予定 入場無料
- ◆12月22日(木) G.F.ヘンデル『メサイア』
 - 指揮/上野 正博
 - 神奈川県立音楽堂 19:00開演予定
- ◆12月24日(土) クリスマスを祝しましょう(キリスト教音楽コンサート)
 - フェリスホール
- ◆2012年1月24日(火) 大学院オーケストラ協演の夕べ
 - ソリスト/学内オーディション合格者
 - オーケストラ/神奈川県立音楽堂
 - みなとみらいホール(大ホール) 19:00開演予定 ¥1,000

お問い合わせ: 音楽学部演奏委員会室 TEL 045-681-5189

Fグループ演奏会のお知らせ

- ◆9月15日(木) ジョイントコンサート フェリスホール
開演18:30 ¥1,000
ピアノ、声楽、フルートによるコンサート
- ◆10月7日(金) 研修会 フェリスホール
～デュエットの楽しみ～
講師: 朝倉蒼生(ソプラノ)、辻宥子(メゾ・ソプラノ)による演奏とお話
高須亜紀子(ピアノ伴奏)
開演 17:00 ¥1,000
- ◆11月10日(木) ティータイムコンサート 山手キャンパス6号館
熊取谷寿子(16回)によるリコーダー演奏、脇谷敦子(ピアノ伴奏)
開演 14:00 ¥1,000(茶菓子付)

お問い合わせ: Fグループ事務局 TEL & FAX 045-681-6740

永眠者(お届けのあった方)

- 大学名誉教授 井上恵美子先生 二〇一〇・十・十三
短大名誉教授 奥山 正夫先生 二〇一〇・一三・十四
倉光 尤子先生 二〇一〇・十二・十六
松岡 貞子先生 二〇一〇・十二・二〇
りてら
齋藤 洋子姉 (75 J) 二〇〇八・十・一
齋藤 淳子姉 (80 J) 二〇一〇・六・二〇
鴨下 裕子姉 (77 J) 二〇一〇・十・八
北村 悦子姉 (56 E) 二〇一〇・十一・七
鈴木 久子姉 (61 E) 二〇一〇・二
雨宮 幹子姉 (51 E) 二〇一〇・二・十九
田中 恵姉 (55 E) 二〇一〇・二・二十二
金子いづみ姉 (83 J) 二〇一〇・三・十一
りてら
佐藤 洋子姉 (D45) 二〇〇九・二・二一
山田 怜子姉 (D35) 二〇〇九・二・二十
迫田 郁子姉 (D35) 二〇〇九・四・十六
東 順子姉 (D55) 二〇〇九・十一・十二
功刀 敏子姉 (D38) 二〇一〇・四・二十三
森 喜代子姉 (D38) 二〇一〇・四・二十三
石田 孝子姉 (D44) 二〇一〇・五・八
廣岡 恵子姉 (D44) 二〇一〇・十一・七
安岡万里子姉 (D45) 二〇一〇・十一
穂本紗千子姉 (D38) 二〇一〇・十一
田島奈可子姉 (D51) 二〇一〇・十一
Fグループ
浅野 佳子姉 (7 M) 二〇一〇・三・八
山城 汀姉 (12 M) 二〇一〇・五・六
高嶺みどり姉 (7 M) 二〇一〇・九・十八
橋本 清美姉 (20 M) 二〇一〇・五・二十八
大畑 肇子姉 (3 M) 二〇一〇・六・七
天来の慰めをお祈りいたします。

資料室からのお願い

- フェリス女学院百五十年史資料集◆
第1集◆「関東大震災女学生の記録」
が発行されました。ご希望の方は資料
室まで。
- 学院の歴史や学生生活に関わる資料
を収集しています。資料をお持ちでし
たら、ご連絡ください。
- フェリス女学院資料室
TEL: 045-662-4411
E-mail: shiryo@ferris.ac.jp

大学祭 FERRIS FESTIVAL 2011

●テーマ: Joining Our Hearts

開催日時: 11月5日(土)・6日(日)
《両日》10:00～20:00

開催場所: 緑園キャンパス

編集後記

大震災から五ヶ月。暑い夏の日、皆様大丈
夫でしょうか。お見舞い申し上げます。本日はこ
こに会報をお届け出来て、いつもの事ながら
ほっとしております。
一人でも多くの方に御
覧頂ければと切に思いま
す。御意見お待ちしております。
りてら



フェリス女学院大学同窓会会報

二〇一一年八月発行
担当: 家政科同窓会りてら
〇四五(六六二)〇七五〇
りてら
〇四五(八一二)八六九二
Fグループ 〇四五(六八一)六七四〇